

みちの会だより

第7号

1995年11月29日発行
地域開発みちの会

第9回 知多・名古屋女性フォーラム

対談 見つめよう女と男の生き方

戦後50年・男女の変遷

平成7年9月30日 於エスペランス丸山

川島三栄子氏 フリーアナウンサー

前田 弘司氏 中日新聞論説委員

司会 山口 道子

対談内容

司会 お二人とも昭和11年生まれの同じ年でいらっしゃる。戦後50年、女性と男性がどう変ってきたかというところから話して戴きましょう。

川島 私達は同じ歳月を生きて、男はこう、女はこうなったという見本だと思います。

戦争が終わった時、私は9歳でした。世間は大学は男性の行くものと思っていましたので女性の私の場合は家中で猛反対されました。変ったことは、現在の華やかな女性キャスターの活躍ですね。私が短大を卒業して、出来たばかりの東海ラジオに入社した頃は、女性にはニュースは読ませてもらえませんでした。ニュースは信憑性が大切、女の読んだニュースを誰が信用するかということでした。その頃から変らないことが多過ぎますね。

前田 私は男性なので、女性の変り方を外から見てお話します。新聞社では昭和60年、男女雇用均等法が施行される以前から女性を採用してはいましたが、社会部にはほとんどいませんでした。定期的に採用し配置してみたら、何ら男性との差異のないことが分かりました。それは大学を卒業して「男性と同等に仕事する」という心構えがあったからです。女性の社会進出は前向きに進ん

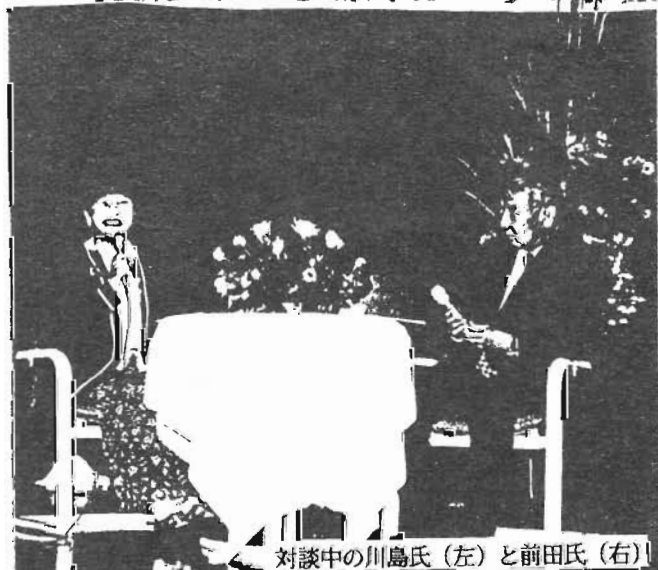
できたと思います。また、家庭・学校において、男女平等は顕著に進んできました。大家族が崩れて家族の単位が小さくなり、家庭内で女性に対する圧力が小さくなってきたからです。しかし、この2・3年の就職戦線では、女性が非常に悪い立場にあります。経済動向など社会進出を阻む新しい要因が加わると後戻りしてしまいます。

川島 私が就職した時も、高度成長の前で就職難でした。女性だけに30歳定年がありました。テレビの仕事がしたいと思いフリーの

1 知多・名古屋女性フォーラム

よう女と男の生き方

主催 地域開発みちの会



対談中の川島氏(左)と前田氏(右)

アナウンサーになりました。当時はまだフリーで仕事することを社会が認めない時でした。私の場合はフリーになりましたが、色々な権利を持つためにも組織の中で頑張りたいものですね。

前田 川島さんはしっかり今日の道を確立されましたが、法律は整えられても実際は景気とか経営上の影響ですぐ後戻りしてしまいます。

川島 弱いものが「割を喰う」ということです。まだまだ女性は弱いですね。建前としての法律は沢山ありますが、男女雇用均等法を成立させたのは、自民党の中曽根政権です。背景の一つには、経済が右肩上に成長し、労働力が不足するので、女性にも働いて欲しい。それで職場での地位を引揚げようということです。二つには日本人は働き過ぎであるし、女性の地位がとても低いという国際的な批判がありました。この法律は社会党、労働組合、女性団体などの働きで作られたのではなく、保守政権によって作られました。罰則がなく破ろうと思えば破れます。だからいま女子は採用しないというのが罷り通っているのです。大変言いにくいのですが、まだまだ女性の努力が個人的なものに留まり、組織としての力になっていないのが原因だと思います。労働組合においても男女平等の問題に取り組んでこなかったと感じています。組織として纏まってこないと実現しにくいのです。

先日、女子大学で夫婦別姓についてレポートを書かせたら賛成は多くないのです。理念として男女平等を進めてきたが、そうでなくてもいいという人が多く、特に女性には常識的に男女平等の考の考え方に水を注す人がかなりいます。

川島 男性は家族を養うために働くということでは括られますが、女性には色々な選択肢があって括れないのです。組織的に纏まっていないからだと思います。百万円の壁とい

うのがあります。主婦の収入が百万円を超えると扶養手当がなくなるので、仕事量を調整するということです。私はずっと仕事をしてきて、夫の扶養家族になったことはありません。税金もしっかり払って社会的な義務と責任を果たしました。スカットした生き方をして欲しいと思います。

先日、岐阜市からN G Oの一員として北京の女性会議に参加しました。中国では、女性55歳、男性60歳が定年ということでした。何故女性は55歳かと聞きましたら「定年になれば年金は貰える、早くから働き始めるので、肉体的にも55歳で解放した方が女性のためにも良いという政府の計らいです。」という答えでしたが、前田さんはどう思われますか。

前田 イスラム教国では女性の相続分は男性の二分の一ですし、一夫多妻が公然と存在して男女差別は定年の差どころではないですね。また中国の一人っ子政策では、出生数の割当が職場毎、地域毎にあって、二人目からは罰金を払わないと戸籍に入れてもらえないようです。子供を出産することについては、夫婦、特に女性に決定権があるというのがアメリカ式考え方です。それに立ってヒラリー・クリントンが演説しましたが、中国の国状を考えると、彼女らの考え方も理解出来るという意見もありました。一つの考え方で全世界を統一するという考えは危険かも知れないと思います。

川島 私は55歳から60歳の間は、それまで積み重ねた経験・実績が花開く時で、管理職に就ける時期だと思います。女性が早く定年になればこの機会を奪われることになるのではないかと思います。

これまでは社会的な面で話してきましたが、家庭における男と女の生き方についてはどうでしょうか。

前田 私は、掃除・買物や料理など、時間に余裕のある方がすれば良いと思っています。私自身、気にせず色々やっています。し

かし子育ては大変です。女性が、子供は一人にしておこうというのは充分理解できます。そして、これからは介護も大きな問題になってくると思います。

川島 何年か前にそれぞれの両親を家に引き取りました。母の方が先にボケました。夫の姉妹達から「お義姉さんはどうして仕事を止めないのかしら」と言われました。夫は仕事が忙しい、息子は受験期。両親介護で家の中がめちゃくちゃになったある夜、明日の仕事を断ろうと決心しました。でも朝になってどうしても断れませんでした。後で母を恨むことになると思ったからです。結局、仕事を整理して今まで続けてきました。

前田 介護について、現状では個人的な努力に負うところが大きいですね。公的介護を充実しなければという意見があるが、やがて財政難の時代が来ます。介護される方は、身内に面倒を見てほしいという人が7割です。できれば家族単位が良いが、介護する人に大きな負担がかかります。平成7年に介護法が発効になりますが、家族に看取ってほしいという希望を叶えつつ、仕事を止めなくてもよい。収入が無くなるのを心配しなくてもよいということです。それでも負担は女性にかかってきます。介護休暇の期間など、実際に介護している人も、していない人も力を合わせて、折に触れて声を出していく必要があると思います。

川島 現在のように終身雇用が危うくなってきましたと、3ヶ月間の介護休暇を取った後会社へ戻してみたら、自分の机が無くなっていたということも考えられますね。本当に重い課題です。

司会 お二人に戦後50年の男女の変遷、制度・構造の変化、国際婦人年の話題など対談して戴きました。ここで会場からご質問・ご意見など戴きたいと思います。

◎ 私は地方議員6期目を務めています、「女は黙っておれ」と育てられましたのに



今では話すことが必要な職に就いております。「おまえを必要とする人のため一生懸命やりなさい」という父の言葉に励まされています。過去を振り返るだけでなく、女性も先を見て暮らさなければならないと思っています。

○ 私は派遣社会教育主事をしています。川島さんの生き方に感動しました。イスラムの女性たちは男女平等の考えがないのではなく、知らないのではないかと思います。遅んで女性に生まれてきたのではないのに社会的に、歴史的にいられない差別を受け続けています。今まで個人の域で悩んでいましたが、このお話を伺って、みんなで問題を出し合って一つずつ解決していけば、少しずつ良くなって行くのではないかと勇気付けられました。

◎ 仕事を続け乍ら、親の介護をしていた時女性にだけ中傷されました。女性の考え方が問題だと思いますが如何でしょうか。

前田 男性も同じように同性に対しては言うと思いますよ。「どうしてかみさんに仕事を辞めさせないんだ。」と。社会全体で介護は女がするものと思っているからです。負担のかかってくる人から声を上げるのが有効だと思います。男女雇用均等法、介護法など禁止規定はあっても罰則はなく、骨抜きではありますが、無いよりは増しで、充実させる方向へ努力をお願いしたいと思います。

川島 既に器が出来ているので、中身を入れ込んでいきたいですね。

司会 今日は大変有り難うございました。

第9回 知多・名古屋女性オフフォーラム

アンケートのまとめ

回収数 173 回収率 58%

① 性別 男性 3 女性 170

② 居住地

阿久比町	半田市	武豊町	美浜町	南知多町	東浦町
42	28	20	18	6	11
常滑市	知多市	東海市	大府市	名古屋市	その他
17	9	10	6	5	1

③ 年齢

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
1	9	44	84	34	1

④ 感想

大変よかった	少しよかった	ふつう	余りよくなかった	大変よくなかった
109	28	32	4	0

- ・対話形式がよかった 11
- ・具体的な内容で身近に感じた 7
- ・初めて参加し、参考になった。今後も参加したい 9

⑤ 参加回数

はじめて	2回目	3回目	4回目	5回目
93	21	20	8	31

⑥ フォーラムへの今後の希望

- ・地域に根付いたテーマ、身近な事柄 5
- ・女性の地位向上、今後の生き方など 4
- ・いい会なので続けてほしい。もっとPRしてほしい 4
- ・若い女性、男性の参加を多くしたい 3

⑦ 関心の深い問題

政治	経済	福祉	保険	医療	介護
11	16	68	10	22	57
人権	平和	国際	女性	教育	環境
14	15	10	35	27	57

⑧ 具体的な事柄

- ・介護、公的福祉について考えたい 12
- ・ゴミ問題、埋立地、リサイクル、水など 6
- ・幸せな21世紀を子孫に伝える運動を 3
- ・女性の力を平和に役立てたい 3

※ 回収率(58%)をもう少し工夫して上げるのが課題であると思った。(文責 片山澄子)

川島氏と前田氏の生き方に学ぶ

星 利子

ともに昭和11年生まれで、戦中戦後を肌で感じておられる二人に戦後50年の変化を問うたのは的を得てすごくよかった。

川島氏が一番変わったと実感されたのは「女性がニュースを読めるようになった」こと。自分達が言い続けてきた甲斐があって、今は女性キャスター全盛である。前田氏は、男女雇用均等法が出来て「社会部にも女性記者が入ってきた。」「ハードな仕事もこなせる」のに驚いている。やりたいことをやれる能力を持つ女性が増えた。この社会変化を女性達が作りだしたのなら素晴らしいことだが現実にはまだ弱い。

家庭における女と男の生き方は難しい。家事は余裕のある方がやれば良いと言われたが、果たして前田氏はやっておられるだろうか？ 子育てと老親の介護は人生の中で一番難しく大変。やりたいことをやり続けるために、努力と思いやりを惜しまないこと。

求める時代の今、みちの会の『仲間です』から『仲間になる』ために自分らしく努力していると思いを新たにしました。

家庭ではまだ不平等が・・・

鷹羽 津代

明るく心地よい声で始まった川島先生と前田先生の対談。新鮮で最後まで興味深く拝聴しました。

現在、女性は色々な分野に進出していますが、川島先生のお話を伺い、先人の弛まざる努力があったればこそと改めて認識しました。しかし、男女雇用機会均等法は名ばかりで、女子学生の就職難や、女性に負担の大きい育児や介護等、社会、また家庭に於て女性には不平等を強いられていると両先生の一致したお話がありました。それは男性にとっても不平等であり、働き過ぎの男性は、生きてゆく上で多くの事を犠牲にしていると思いました。

若い世代に、保守化の傾向が見られるとのお話がありましたが、戦後50年を経て、少しずつ男女平等意識が浸透し、保守の中身が違っているのではないのでしょうか。そして彼らが人間として平等な社会に生きていくには、現在を築いてきた私たちが、固定観念を捨てて性の枠を超えた柔軟な考え方をして行くことが大切だと、お二人のお話から学びました。



第4回 世界女性会議あれこれ

山口 道子

1995年、夏から秋にかけて、私にとって殊の外忙しく、慌ただしい日々でした。春、アジアで初めて開かれる世界女性会議参加への思いが強くなり、国連に50ドルを添えて参加を申込んだ。6月にやっとNGOフォーラム参加の入場パス（首に下げる赤いカード）の引換登録証が届いた。

今回の開催国である中国の国情もあり、参加予定者のホテル確認票、ビザの取得等々慌ただしい日を経てやっと出発に漕ぎつけた。北京では制服、私服の警官に二重・三重に守られて（見張られて）の行動となった。参加希望者全員に平等な権利をとらず、ある一定の人が参加出来れば



NGOフォーラム会場・入場門前

良しと考えるのか、総てのことに自分で注意を払い行動しないと何も手に入らない。

8月30日夕方5時、オリンピックスタジアムで開会式があり、厳重な検査の後入場、幼稚園児から大人までの数々のマスゲームは、一糸乱れず大変にきれい。前回の開催地ナイロビより聖火が到着、点火され熱い14日が始まった。黒いチャドルに身を包み必死でカメラを回している女性記者、豊かな身体に鮮やかな民族衣装をまとって参加するアフリカの女性等々。最後に参加者全員が手をつないで大合唱。薄暮の7時に閉会した。

翌31日から、都合で変更された懷柔県の会場へホテルから直行バスで通った。会場の中には世界各国の女性が集まり、ワークショップ（小集会）で、ブース（展示）で、或は路上のデモストレーションでと思いを訴えている。愛知県派遣団の中には、みちの会の7月の学習会に講師をされた池田桂子弁護士の姿も見られた。

9月15日、政府間会議で行動規範が採択され世界女性会議は閉幕した。12の重大問題領域はA 貧困、B 教育、C 健康、D 女性への暴力、E 紛争の影響、F 政策決定への参加、G 意志決定の分担、H 女性の地位向上、I 人権、J メディア、K 環境、L 少女、で、行動綱領は、女性のエンパワーメントのアジェンダであり、差別される側から変革の担い手となるための力をつけることが必要となる。

愛知県下でも、あちこちで帰国報告会が催されている。私も5月より準備していた「第4回世界女性会議記念尾張地域フォーラム」で実行委員の一人として、1400名の参加者と全体会、分科会で女性のおかれている現状、将来について世代を超えて話し合えたことは、非常に意義深かったと思った。

先進国の中で女性の地位が低い日本は、女性問題についていまだに開発途上国と思われる。改めて地域開発みちの会等の足元からの活動を大切に行きたい。今開発真っただ中にある中国を、5年後、10年後に再び訪れてみたいと思っている。

（永山さんと重複しないように書きましたので文が飛び、読みづらい所はがご了承下さい）

第4回 世界女性会議（北京）NGOフォーラムに参加して

世界の女たちのパワーが燃え上がった！

永山 峰子

第4回 国連世界女性会議は、政府間会議が9月4日から15日まで北京で開かれ、180ヶ国以上から1万人が参加しました。これに先立ち8月30日から9月8日まで、北京郊外（市内から車で約1時間）の懷柔県で開かれた非政府組織（NGO）フォーラムには世界各地から3万人が参加し、日本からも約6千人が参加しました。テーマは『平等、発展、平和』。スローガンは『女性の目で世界を見直そう！』でした。



草の根交流

私は、中国という国を一目見たいこと、世界中の女性が一同に会する国際会議という場を経験してみたいという思いで参加しました。わずか3日の参加でしたが報告します。

世界女性会議は、第1回のメキシコに始まり、コペンハーゲン、ナイロビと回を重ねて北京に至りました。

近年、国連会議でNGOの活動が年々

高く評価されるようになりました。が、今回は中国政府の強硬なNGOフォーラム会場の変更、ビザの発給制限（亡命チベット人、台湾人はじめ独立運動や人権運動をしている人に対して）などがあり、開会までにさまざまな情報が飛び交い心配されました。しかし、そうした事実はたくさんありましたが、それ以上に『女性の地位向上』など本来的なテーマにむけて、女性による盛んな活動が繰り広げられていました。

NGOブース、テント（地域ごとテント、ピーステント、ユーステントなど）による展示に賑やかな人の集まりがありました。連日開催されている各種のワークショップは圧巻で、一日五百前後開かれていました。テーマは教育や健康、暴力、政治、メディア、芸術、文化など多様で、私はアジアの女性たちに関するワークショップに二、三参加しました。経済発展の下で多くの女性たちは生存を脅かされるほど貧しく、人身売買などの性暴力に曝され、環境破壊に苦しめられ、人権を侵されています。日本は世界最大の援助（ODA）供与国でもあるが、受入れ国の女性や貧困生活の向上に役立っていないのです。『開発のアジア』より『人権のアジア』を目指し、女性たちが立ち上がり闘っている姿は非常に刺激的でした。

この問題については、同じアジアの一員として日本の私たち一人一人がどう生きるかを問われ、行動することを求められているのを強く感じました。そして英語力（語学力）があったならもっと積極的に関わることが出来たであろうと残念に思いました。第5回の女性会議にはみちの会全員で出掛けましょう。5年後になるか、10年後になるかは未定ですが、それまで元気で頑張らしましょう。



NGOフォーラム会場・インフォメーションボードの前で

ヨーロッパでは女性が活躍している

欧州視察旅行に参加して

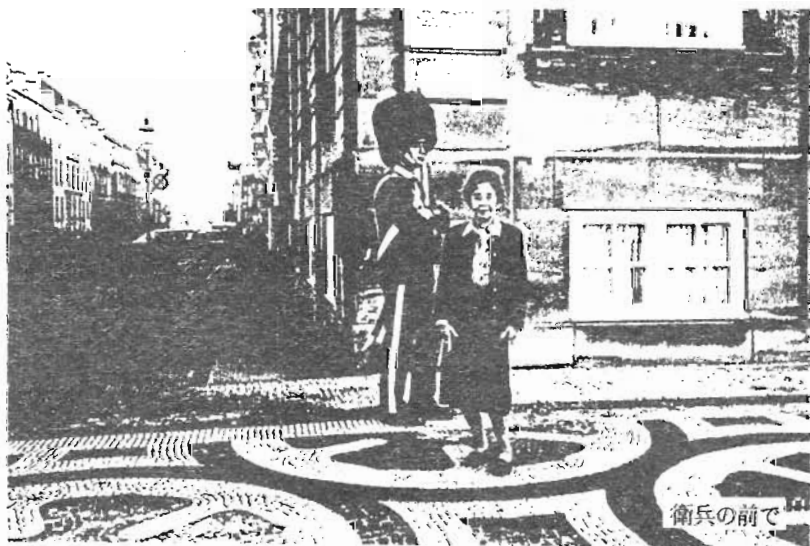
瀬織 信子

10月5日から10日間、知多郡議長会視察に参加して「環境行政」「老人福祉」「地域開発」「空港」「地方議会」等のテーマで、英国・デンマーク・オランダを訪問しました。

初の欧州旅行をして二つのことに驚きました。一つは訪問先の都市に日本人の多いことでした。先のフォーラムで川島先生が「日本女性の海外旅行は世界の経済を左右する。」と言われましたが、なるほどと感じました。ロンドンのホテルでは東京の私立女子中学生60名の修学旅行一行に出会いました。エレベーターの中で聞いたところによると、このホテルを拠点に8泊して色々な所へ行き、その費用は50万円とのことでした。（大学生ならともかく中学生とはね）私達の買物は空港など日本円が使えるところが多いせいか、ショッピングを楽しむ60台位の女性の姿が多いのが印象的でした。一行の中には旅行中に知多市、半田市、阿久比町、名古屋市などの知人と出会った方もありました。

視察団はそれぞれの国の首都に滞在し、ときどき日本料理専門店で案内されましたが、どの店も大きく立派で、日本人でいっぱいでした。日本を離れて日本料理の素晴らしさに気付きました。漬物、みそ汁の味は格別でした。

二つ目は、訪問先の国々では男女共同型社会が定着していることでした。コペ



ンハーゲンの市議会を訪問したとき、女性の事務局長の説明によると、デンマークでは議員は男女同数が望ましいと明記されているので、立候補者は男女同数、選挙結果は差の出ることもあるが、現在は同数で、議長は女性だそうです。また別のプライエム（特別養護老人ホーム）の所長も女性で、説明を終えて施設を案内してくださった次長は男性でした。空港の出入国の審査官も女性の方が多かったようで、多くの女性が重要な地位に就いていることが伺われました。イギリスではテムズ河畔の旧港湾地区で、再開発地帯も案内して下さいましたが、これも女性でした。バッキンガム宮殿では、衛兵の交替パレードに出会うことが出来ましたが、馬に跨りさっそうと行進していく騎乗兵の中にも、20歳過ぎの雄々しくも美しい女性の姿が見られました。女性の地位向上を肌で感じ、同行の男性議員諸氏のインパクトになることを念じて帰国しました。

わが国の女性問題の壁はまだ厚いと思いますが、21世紀の地域開発のためにも、皆さん一緒に考え、行動していきたいと思っています。



新人議員・半年たって思うこと

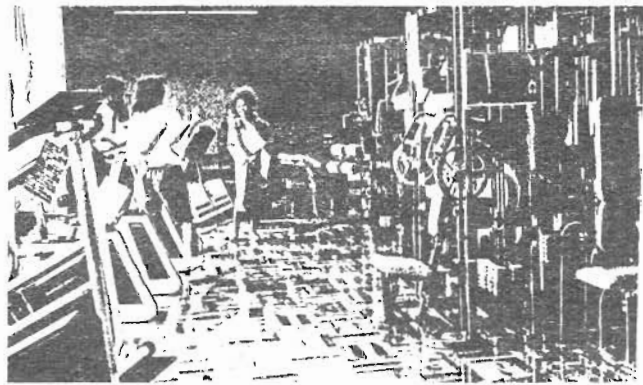
杉江 節子

昨年の夏、酷暑と水不足にあえぎながら『常滑沖の空港建設計画の賛否を問う住民投票を求める請願』のための署名運動に参加しました。

1989年3月に中部三県一市の首長が空港候補地を常滑沖に合意して以来、市民の間に空港問題が話題として上るようになりました。しかし、市民一人一人の声はなかなか行政には届きません。それどころか市民の手の届かぬところ、三県一市と中部財界の間でプロジェクトは静かに、そして確実に進んでいきます。空港建設は常滑の町も、市民の生活も、自然環境も、将来にわたって大きく変えてしまう重大な問題です。第七次空整を前にして、市民の間には『私たちを置き去りにしたまま進めないでほしい』『私たち一人一人に聞いてほしい』とする声がかかり、1万4千余の署名となって寄せられました。その署名をもって今年三月議会に『住民投票を求める請願』を提出しましたが、結果は『賛成1』で不採択とされました。

市民の代議機関である市議会において、1万4千余の声が退けられた時、私は市民の声をしっかり聞き、ともに考え、それを反映させる政治、わかりやすく開かれた政治の必要を感じました。と同時に『空港問題の疑義をただす議員が必要ではないか』『市政に、もっと女性の視点を』など考え、悩みに悩んだ末、立候補を決意しました。初めてのことでいろいろ大変でしたが、大勢の女性の応援を得て、当选することが出来ました。

当选して最初の仕事は会派届けでした。私は公約の中に『空港の賛否は住民投票で』『空港は来てほしくないという声を、政治の場に伝える』の2点を掲げています。この点に関しては他の会派とはどうしても一致できそうにもなく、一人会派で是々非々でやっていく決心をし、清政会と名付けて届け出しました。『一人会派では何もでき



音更町総合体育館にて

ないよ』ということは色々な人から言われていたことですが、一番肝心なことを曲げたり譲ったりしたら支持して下さった方々を裏切ることになります。議員になった意味がありません。

議会という所に入ってみて二つの大きなことに気付きました。

第一は、市長の権限が絶大であるということ。議会は常に数の論理で押し通されるところとことです。そのためには常に群れていなければなりません。常滑市の最大会派は現在19名（議員定数26名）です。それぞれの議員にはそれぞれの考え方があり、必ずしも一枚岩ではないのですが、市長の与党という意識と、数は力なりの考えで一塊りになっています。本来議会は執行部のチェック機関である筈なのに、それが充分機能していないように見受けられます。

第二は、市民の政治不信が政治を駄目にしていくということです。『政治や政治家は汚い』そういう目で見ながら、地域のエゴなどは議員に押しつけていく。信頼される政治家が少ないから政治が駄目になるのか、信頼できる人を育てないから駄目になるのか。政治家の側にも問題があります。どの議員も選挙という修羅場をくぐり抜けてきています。私も過去何度か選挙を手伝い、選挙がどんなものか多少は知っていましたが、候補者という立場はまた別です。大

勢の良き理解者に恵まれていて、尚、私には苦しい経験でした。どの議員にも大なり小なり修羅場をくぐり抜けてきた自負とプライドがあります。そのことが知らず知らずのうちに市民との距離を作っていくのではないかと思います。

さて、六月議会は、初めての一般質問と、再度提出された『住民投票を求める請願』の紹介議員として紹介発言をしました。結果は『賛成4・継続1』で不採択。

九月議会は、一般質問と議員提出議案（常滑市議会では初めてのこと）『常滑沖に計画されている中部新国際空港の建設についての住民投票に関する条例の制定』を他会派の議員三氏と協力して提出し、提案理由説明と質疑の答弁をしました。結果は『賛成4・退席1』で否決。前途遼遠です。

『一人は無力だけれど、存在するのと存在しないのとは大違い。気を楽に』という他所の議員の励ましを支えに、肩の力をぬいて、焦らず地道に民主主義実現の努力を重ねていきます。

嬉しかった日本での成長

国際交流はなのき会フォーラム

山本 伸子

10月21日、国際交流はなのき会の『考えよう！語り合おう！国際交流の原点』と題したフォーラムに参加しました。

会場のコーナーには花や、アジアの国々からの手作り作品などが並べられ、和やかな雰囲気で開催しました。会長のことばから、会員皆様の日々の活動の様子や国際交流への意気込みがよく伝わってきました。

『異文化交流、ホームステイを通じて』AFS東海支部長大山氏の講演は、一昨年から1年近く、北欧ノルウェーの16歳の男子のホストファミリーをつとめた経験から、納得出来ることが多くありました。一人の留学生を送り出すことも有意義だが、受け入れることによって広がる交流の輪はとても大きなものと実感しました。この夏に3週間、彼の国をはじめ北欧三国を訪ね、話に聞いていた自然や文化に触れることが出来ました。最高の喜びは彼の家族が、日本での成長ぶりを認めて下さったことでした。国際交流員メラニーさんの『日本人は、世界を日本と外国の二国ととらえている気がする』ということばがとても気になりました。

新年会のお知らせ

日時	平成8年1月2日(日) 午前11時開会	議題	・平成8年度役員選考 (各市町の幹事を提出して下さい) ・総会について
場所	清水荘(内海)		※昼食は懇親会にします。
会費	5,000円 当日会場で受け付けます。		新鮮な魚料理がたっぷりです。
出欠	は連絡網の最初の人へ 1月8日厳守		多くの方の出席をお願いします。

編集後記 本年も残り少なくなりました。皆様から沢山の原稿をいただき『みちの会だより7号』を、ここに発行することが出来ました。ご協力ありがとうございました。尚、次回は来年1月 日発行を予定しています。特集として『戦後50年』にあたり、皆様からいろいろな『おもい』を書いていただこうと思います。原稿用紙が届きましたらよろしくお願いいたします。お体を大切に良い年をお迎え下さい。

みちの会だより7号 編集担当者 吉岡繁代・片山澄子・阪野信子・水上規子